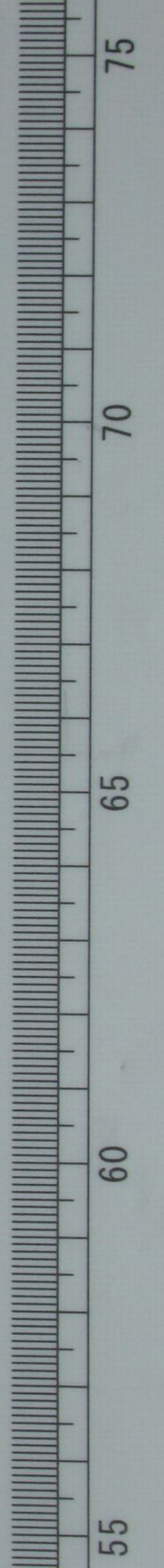


兼好法師家集
 分影友
 少之八人

伊地知文庫
 文庫20
 328



家々分見

增補味元書冊

伊地知氏書冊

伊地知氏書冊

和名正奈奈命童子至
髪也 万うかひこ
うかひこまめとみ
ありこのうかひこ
名ちり 菟會荒原
ちりこけり

成務紀
推古紀
皇極紀

石語拾遺 車甚切
皆并阿那

しんやの雲のうらみ。おのふもわらう。ひるきくも
らいたまひの御のたまひのたまひのたまひのたまひのたまひ
まらう。しんやの御のたまひのたまひのたまひのたまひのたまひ
ちりこけり。ちりこけり。ちりこけり。ちりこけり。ちりこけり。
たて。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。
よみあまのたまひのたまひのたまひのたまひのたまひのたまひ
やうよ。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。
くらがる。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。
まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。まらう。

Handwritten notes in red ink at the top of the page, including the name 'GARDNER' and other illegible characters.

Main body of handwritten text in black ink, written in a cursive script, likely representing a name or a specific title.

Small handwritten notes in red ink at the bottom of the page, possibly a signature or a date.

註スル処は五ノナ
イテス下管ハ四ヲ
子テヒレハシ

去 いひいひい
いひいひい
いひいひい

出 いひいひい
いひいひい
いひいひい

坐 いひいひい
いひいひい
いひいひい

句 いひいひい
いひいひい
いひいひい

調 いひいひい
いひいひい
いひいひい

治 いひいひい
いひいひい
いひいひい

寢 いひいひい
いひいひい
いひいひい

急 いひいひい
いひいひい
いひいひい

言 いひいひい
いひいひい
いひいひい

解 いひいひい
いひいひい
いひいひい

散 いひいひい
いひいひい
いひいひい

折 いひいひい
いひいひい
いひいひい

入 いひいひい
いひいひい
いひいひい

祈 いひいひい
いひいひい
いひいひい

晴 いひいひい
いひいひい
いひいひい

問 いひいひい
いひいひい
いひいひい

契 いひいひい
いひいひい
いひいひい

急 いひいひい
いひいひい
いひいひい

古今
アハカシノクテ山田カリシ
ウキ世中ヲ思ヒ是哉
イタヨヒニ子タル初哉
コトコトニヤカテコトナル
コトコトナル

落

おちおち
おちおち
おちおち
おちおち

追

おひき
おひき
おひき
おひき

置

おきおき
おきおき
おきおき
おきおき

後

おのち
おのち
おのち
おのち

贈

おくり
おくり
おくり
おくり

悔

おんが
おんが
おんが
おんが

朽

くち
くち
くち
くち

曇

くもり
くもり
くもり
くもり

暮

くもり
くもり
くもり
くもり

宿

しゆく
しゆく
しゆく
しゆく

院

しゆく
しゆく
しゆく
しゆく

紡

おんが
おんが
おんが
おんが

送

おくり
おくり
おくり
おくり

待

まちまち
まちまち
まちまち
まちまち

増

おんが
おんが
おんが
おんが

煙

けむり
けむり
けむり
けむり

降

ふり
ふり
ふり
ふり

古

ふる
ふる
ふる
ふる

拾 ひらひら
ひらひら
ひらひら
ひらひら

燎 かえり
かえり
かえり
かえり
かえり
かえり

塞 せき
せき
せき
せき
せき

海の又ふりあつて。さほのうへへあつて。
たふちうへへあつて。さほのうへへあつて。
たふちうへへあつて。さほのうへへあつて。
たふちうへへあつて。さほのうへへあつて。
たふちうへへあつて。さほのうへへあつて。
たふちうへへあつて。さほのうへへあつて。
たふちうへへあつて。さほのうへへあつて。
たふちうへへあつて。さほのうへへあつて。
たふちうへへあつて。さほのうへへあつて。
たふちうへへあつて。さほのうへへあつて。

見 み
み
み
み
み
み

こいさ并
こいさ下船

こいさ并
こいさ下船
こいさ下船
こいさ下船
こいさ下船
こいさ下船
こいさ下船
こいさ下船
こいさ下船
こいさ下船

けしとトイフ一言花子
月子とトイフハカリニ
アス人ノ心ヲこころ
知スルヲトモニトスハ
一物ニんトイフは住チ
刊キリナキ

けしとトイフ一言花子
月子とトイフハカリニ
アス人ノ心ヲこころ
知スルヲトモニトスハ
一物ニんトイフは住チ
刊キリナキ

けしとトイフ一言花子
月子とトイフハカリニ
アス人ノ心ヲこころ
知スルヲトモニトスハ
一物ニんトイフは住チ
刊キリナキ

系ク4トハカ
ケウエテニ
ミントキモ
オモヒト人
コレトモ
ヨリテ引イ

あきま
あきま
あきま
あきま
あきま
あきま
あきま
あきま
あきま
あきま

あきま
あきま
あきま
あきま
あきま
あきま
あきま
あきま
あきま
あきま

ゆへ

かゆへん地の
まろそらけき

はれんめ
ゆへん地ち

二句とそ
自地用

ゆへ

ゆへんち
ちのこま

あゆゆへん
のこま

自地用

ゆけ

みちこ
月まてゆけ

あまてゆけ
海島木道

ゆげ自

住

ゆへん
ゆへん

澄心るて何日

ゆへ

ゆへん
あゆゆへん

あゆゆへん
ゆへん

ゆへ

ゆへん
ゆへん

ゆへん
人のまこぬ

自

ゆへ

ゆへん
ゆへん

ゆへん
ゆへん

自

ゆへ

ゆへん
ゆへん

ゆへん
ゆへん

自地用

ふかかきんとい

これ人のまことなり

みちをいささ

西辰春洛東圖南亭ニ

筆とて家 芦菴

あいらちちたふよりよそかみおのこをい
文の筆に多かりて乃こはとを長らうき梓やて
うぬまらひのなをまきせしものせんとをちり
こはく又いふよきりとのたのむはは
やう川老老をいささひひくくおふふ

寛政八年丙辰三月

京都二條通富小路東八入町

吉田即右衛門



兼好法師家集上

伊地知氏書冊

ふ山よますふいとて寝よあまふとほえー又

そはらうよと社とけうれ扱き開夜のとらのあけおれそ
あまふれせき吹とゆ風のうふりあまふれそ
言ふふ日又柳子花中絶るふよ

寝もえとよぬ日あまふとあまふとあまふと
寝もえとよぬ日あまふとあまふとあまふと
寝もえとよぬ日あまふとあまふとあまふと

色——

あつたてふにむしはくすむしはくすのうらみ
かたがひはくすむしはくすむしはくすむし

あつたてふにむしはくすむしはくすむしはくすむし
あつたてふにむしはくすむしはくすむしはくすむし

あつたてふにむしはくすむしはくすむしはくすむし
あつたてふにむしはくすむしはくすむしはくすむし

あつたてふにむしはくすむしはくすむしはくすむし
あつたてふにむしはくすむしはくすむしはくすむし

あつたてふにむしはくすむしはくすむしはくすむし
あつたてふにむしはくすむしはくすむしはくすむし

あつたてふにむしはくすむしはくすむしはくすむし
あつたてふにむしはくすむしはくすむしはくすむし

あつたてふにむしはくすむしはくすむしはくすむし
あつたてふにむしはくすむしはくすむしはくすむし

あつたてふにむしはくすむしはくすむしはくすむし
あつたてふにむしはくすむしはくすむしはくすむし

大井の海まで行くと見おぼしき

大井の海まで行くと見おぼしき

大井の海まで行くと見おぼしき

大井の海まで行くと見おぼしき

大井の海まで行くと見おぼしき

大井の海まで行くと見おぼしき

大井の海まで行くと見おぼしき

大井の海まで行くと見おぼしき

大井の海まで行くと見おぼしき

大井の海まで行くと見おぼしき

大井の海まで行くと見おぼしき

大井の海まで行くと見おぼしき

大井の海まで行くと見おぼしき

大井の海まで行くと見おぼしき

大井の海まで行くと見おぼしき

この書は、*Handwritten text in cursive script*
あつて、*Handwritten text in cursive script*
梅をうへて、*Handwritten text in cursive script*

并に、*Handwritten text in cursive script*
松阿母の、*Handwritten text in cursive script*
るは、*Handwritten text in cursive script*
く、*Handwritten text in cursive script*

Handwritten text in cursive script

後後拾遺

後現存

山里の、*Handwritten text in cursive script*
た、*Handwritten text in cursive script*
法を、*Handwritten text in cursive script*

Handwritten text in cursive script
新、*Handwritten text in cursive script*

冬の夜あましくおのれおぼやけしてはたき
松の木のうらうらまはくまへいりて月夜をうら
よしお語——侍せん人——

ふさゆのちとよのちをまをえて松の夜をこの月をこ——
世とくひのこをさ——此世のまをさ

そくまは、いんげん(豆)世のまをくはらせしむるこ
ふさゆのちとよのちをまをえて

世のまをさるるちとよのちをまをえて

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

世の中をまをさるるちとよのちをまをえて
あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

大井河を流るる一水は世の心や世の心

梅の花

見てもなほあるは梅の花は、ほめよとてよたまふぬいぬの
井のほとけをきしとてよよと流れたるよふうつら梅のあや
二月のうらうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
さうじよふさあやとてよふりうきよとてよふさうとて
かく一つは梅の花は、ほめよとてよたまふぬいぬの

柳

このあやうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
まある柳のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
世中をうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
世中のあやうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
人々のうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
あやうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
はうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう
うらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらうのうらう

侍従中納言あな玄庵上人の題をてしるのよみ

竹一は本末のよのい

山より本末をよむるのいふこと日かたしつゝまのいふ

花のいふ

山より本末をよむるのいふこと日かたしつゝまのいふ

花のいふ

山より本末をよむるのいふこと日かたしつゝまのいふ

花のいふ

山より本末をよむるのいふこと日かたしつゝまのいふ

花のいふ

山より本末をよむるのいふこと日かたしつゝまのいふ

花のいふ

竹一奥に花のいふ

山より本末をよむるのいふこと日かたしつゝまのいふ

花のいふ

山より本末をよむるのいふこと日かたしつゝまのいふ

後記

堂のりら又永仁五年(1113)の二位の世部大納言
長久保長房(長房)の御孫長房(長房)の御孫長房(長房)

長久保長房(長房)の御孫長房(長房)の御孫長房(長房)
長久保長房(長房)の御孫長房(長房)の御孫長房(長房)

長久保長房(長房)の御孫長房(長房)の御孫長房(長房)
長久保長房(長房)の御孫長房(長房)の御孫長房(長房)

源氏

長久保長房(長房)の御孫長房(長房)の御孫長房(長房)
長久保長房(長房)の御孫長房(長房)の御孫長房(長房)

長久保長房(長房)の御孫長房(長房)の御孫長房(長房)
長久保長房(長房)の御孫長房(長房)の御孫長房(長房)

長久保長房(長房)の御孫長房(長房)の御孫長房(長房)
長久保長房(長房)の御孫長房(長房)の御孫長房(長房)

山崎のこゝろは多分の憂鬱を感ずるにせしむるに我の憂鬱を感ずる
はなはだ憂鬱に感ずるはなはだ憂鬱に感ずるはなはだ憂鬱に感ずる
まづこゝろは僧正及び我の心はなはだ憂鬱に感ずるにせしむる
人なれば巧みなるはなはだ憂鬱に感ずるはなはだ憂鬱に感ずるにせしむる

色一 僧正

山崎のこゝろは多分の憂鬱を感ずるにせしむるに我の憂鬱を感ずる
はなはだ憂鬱に感ずるはなはだ憂鬱に感ずるはなはだ憂鬱に感ずる
まづこゝろは僧正及び我の心はなはだ憂鬱に感ずるにせしむる
人なれば巧みなるはなはだ憂鬱に感ずるはなはだ憂鬱に感ずるにせしむる

色一

山崎のこゝろは多分の憂鬱を感ずるにせしむるに我の憂鬱を感ずる
はなはだ憂鬱に感ずるはなはだ憂鬱に感ずるはなはだ憂鬱に感ずる
まづこゝろは僧正及び我の心はなはだ憂鬱に感ずるにせしむる
人なれば巧みなるはなはだ憂鬱に感ずるはなはだ憂鬱に感ずるにせしむる

山崎のこゝろ

僧正のこゝろ

山崎のこゝろは多分の憂鬱を感ずるにせしむるに我の憂鬱を感ずる
はなはだ憂鬱に感ずるはなはだ憂鬱に感ずるはなはだ憂鬱に感ずる
まづこゝろは僧正及び我の心はなはだ憂鬱に感ずるにせしむる
人なれば巧みなるはなはだ憂鬱に感ずるはなはだ憂鬱に感ずるにせしむる

今更なる事なき事なり

氏部カの事なり

ト云ふ事なり

きよき事なり

着水

海にせぬ事なり

早蕨

今更なる事なき事なり

帰一厚

今更なる事なき事なり

成道

今更なる事なき事なり

初事

今更なる事なき事なり

五月

今更なる事なき事なり

泉

月中のせ井の水の流れたあまのよひと名のあへん

駒通

いよ一谷所やあそ一川流してけしお坂のめがし

岩床

飯とほ理を此家とてうのいぬもらぬきさくよ

松虫

解さしきおのたもたむのいぬあひたは

極火

炬火のあへんはまごけし東まあへんし

綱代

少あし一いんあへんあいのねらやとちほの綱代

寡言

志す言のあへんにみれぬひちらあへんおかやたむ

寡言

関わりあへんはあぬをとあへんあまの岩のまじ

寡言

ひらき氷とくすくすのうた *Tomokuni no Uta*

寄 郡 志 賀
解あしとまや結乙一夜神よ并にまよふ地 *Tomokuni*

あやにまよふたぢにまよ *Tomokuni no Uta*

定政の院一条附あへ成てあや *Tomokuni*

まよふたぢにまよ *Tomokuni*

あやにまよふたぢにまよ *Tomokuni no Uta*

まよふたぢにまよ *Tomokuni*

あやにまよふたぢにまよ *Tomokuni no Uta*

まよふたぢにまよ *Tomokuni*

あやにまよふたぢにまよ *Tomokuni no Uta*

まよふたぢにまよ *Tomokuni*

あはれに思ふにうらやまの心は

あはれに思ふにうらやまの心は
あはれに思ふにうらやまの心は

あはれに思ふにうらやまの心は
あはれに思ふにうらやまの心は

あはれに思ふにうらやまの心は
あはれに思ふにうらやまの心は

あはれに思ふにうらやまの心は
あはれに思ふにうらやまの心は

あはれに思ふにうらやまの心は
あはれに思ふにうらやまの心は

あはれに思ふにうらやまの心は
あはれに思ふにうらやまの心は

あはれに思ふにうらやまの心は
あはれに思ふにうらやまの心は

あはれに思ふにうらやまの心は
あはれに思ふにうらやまの心は

あはれに思ふにうらやまの心は
あはれに思ふにうらやまの心は

あはれに思ふにうらやまの心は
あはれに思ふにうらやまの心は

あはれに思ふにうらやまの心は
あはれに思ふにうらやまの心は

あはれに思ふにうらやまの心は
あはれに思ふにうらやまの心は

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page. The text is written in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page. The text is written in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page.

神子た中納言あまし 甚良 甚山 甚徳

子尊とひちりやいあひのあはれまをのわんくんのしんあひ
よあまたまをのしんあひのあはれまをのわんくんのしんあひ
そのれあまあまをのあはれまをのわんくんのしんあひ
建武二年内裏あまし 千首并海せまき 一とて
たまりてよきまき 一とて

甚徳物

久方甚井のとうにいつの日も日るにわんくんのしんあひ

甚良動物

おとまきあつとせまた神子の毒の種又まきあつと

甚天象

秋のころそとや月の子さえて天の川原あまのしんあひ

甚天象

あまのしんあひのあはれまをのわんくんのしんあひ

甚天象

あまのしんあひのあはれまをのわんくんのしんあひ

急種物

此の地はなほなほくさくさの間に木は生じずとも草は茂り
雑地候

此の地の水はあつたはらへていづれかへていづれかへて
人買のたきもあつたはらへていづれかへていづれかへて
あつたはらへていづれかへていづれかへていづれかへて
あつたはらへていづれかへていづれかへていづれかへて
あつたはらへていづれかへていづれかへていづれかへて

水色

あつたはらへていづれかへていづれかへていづれかへて

あつたはらへていづれかへていづれかへていづれかへて

あつたはらへていづれかへていづれかへていづれかへて

あつたはらへていづれかへていづれかへていづれかへて

あつたはらへていづれかへていづれかへていづれかへて

あつたはらへていづれかへていづれかへていづれかへて

あつたはらへていづれかへていづれかへていづれかへて

誰波くこち不風ふせ立てぬあはれいかにあはれ

連歌待と色

あつねのふたえりていそくぬのふたえりていそく

兼好法師家集 下

絶てのちあはれとていそ

わめいほふとたはれはまはらふらあはれあはれ

冬のもーめれ新

ひろれあうこおはれはるへてこもてすれはま

へていよ梅きのあはれまにあはれのあはれ

梅をやすまはれはたはれあはれあはれあはれ

いそく

結縁經乃く随喜功德品の世皆不空同如
水沫泡炎

う池はら志をたはよ水乃浪の消るを世はら
具任くま免俗也一もあはら波の舟

はらあはらよのさむはらの舟はらにたはら
懐旧

おまきのあはらよの舟はらにたはら
たはらあはら

あはらあはらよの舟はらにたはら
あはらあはら

たはらあはらよの舟はらにたはら
あはらあはら

よーたはらあはらよの舟はらにたはら
善提樹院乃あはらあはら

あはらあはらよの舟はらにたはら
たはらあはら

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry.

Handwritten text in a cursive script, continuing the previous entry.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific phrase.

Handwritten text in a cursive script, continuing the previous entry.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific phrase.

Handwritten text in a cursive script, continuing the previous entry.

Handwritten text in a cursive script, continuing the previous entry.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific phrase.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific phrase.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific phrase.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific phrase.

Handwritten text in a cursive script, continuing the previous entry.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a specific phrase.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on two pages of aged, yellowed paper. The script is dense and fills most of the page area. The right page has a small section of text written in a different, possibly Latin or German, script at the top, which appears to be a header or a specific section title. The main body of text on both pages is in a highly stylized cursive.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Vertical handwritten text, possibly a signature or date.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Vertical handwritten text, possibly a signature or date.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Vertical handwritten text, possibly a signature or date.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

Vertical handwritten text, possibly a signature or date.

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes.

此一冊者右以中院前內存通村公自筆之本
寫之墨減假名遺隨寫本而已

家集交

詞負事
不可訂定之多少隨意

或十六首或七十九首
三百餘首者皆以此

長哥連哥亦相又贈各勿論也

又非贈答他人詞隨便多書載之

部之事

全不可省之隨有分部人不可然在耳心者也

卷頭

立部立之上者可任心名雜等又解冬勿論也

哀傷哥事

自卷及第十九番書之忠考集如此

詞事

如日記物語亦長書續又奇合判詞是非故實亦
以次書其才常覺中更也

已上得此意可書之

去乃てあより、ひとよくの梅もあま
とぬよ

ちもれあもあまきぬらりにうきあまの秋ゆわ

部兼好以倭詞聞然其所作徒然草
遍行於世而家集罕傳其或載撰集或
儼落人間者皆考誦以為實近頃詠草一帖
幸出故内相源通村公曾跋其末以為之證
洽之書肆時元索禮之欲鑄梓而乞一語倭詞非
余所知然有内相之跋則知其不贗且余先考
羅山子愛其為人奇其倭語為之露抄則余於
兼好不能以尋常語人視焉想夫彼一生之

謙望是而已哉蓋以韜晦之士故其所吟亦共
散逸而此一帖其泰山之毫芒乎在下好倭語者上
則崑山之斤玉乎於是戲將元曰此是序玉
汝治哉治哉胡盧亂道處焉

寬文甲辰之夏

弘文院林学士

